

平成7年5月31日

"日本の教育現場を参考に...."

～台湾政府教育庁視察団が授業参観～

我が国の文部省にあたる台湾政府教育庁の視察団が31日、区立大塚台小学校並びに区立長崎中学校を訪問し、学校施設を見学した後授業を参観した。

この視察団は国立屏東師院初等教育学教授兼実習指導室主任 朱文雄 (CHU WEN-HSIU NG) 氏(53才)を団長に、台中市の小学校長をはじめ18名の小中学校の教師ら総勢22名で、学校教育の改革のための視察を目的として5月12日から来日していた。

九州、大阪、静岡、横浜と観光・視察を続け、31日に宿舎である区内のサンシャインプリンスホテルに到着後、大塚台小学校に向かう。

まず武川行男校長より学校の概要説明の後、「小学校なので基礎・基本的なことを身につけさせるのは勿論、一人ひとりの力が活かされることを狙いとした教育を行っている。ここ最近、人間関係がうまく作れなかったり、いじめの問題がないわけでもない。家庭教育と連携しての教育の難しさを痛感しています」との教育に関する話を視察団の人たちは真剣な眼差しでメモをとりながら聞いていた。

武川校長の話につづき「日本の学校教育と比較し、別の角度から違いがあるか興味深く見学をさせてもらいたい」と団長の朱文雄氏からの挨拶の後校内を見学し、身障学級、2学年の国語、4学年の音楽の授業を参観した。

音楽の授業では、児童の持つ楽譜をのぞきこみ気さくに話しかける風景もあった。たまたま、このクラスに台湾籍の女児がおり紹介された。この他同校には中国籍の児童2人、韓国籍の児童1人の計4人の外国籍児童が在籍しているとのこと。

この後長崎中学校に移動し、給食を試食して授業を参観し、生徒たちの清掃風景も見学した。

台湾では、社会のモラルが低下し犯罪の件数も増えている。このことは学校教育のあり方に問題があるとして、教育庁は約500名の教師を国費で日本に派遣することとし、今回の来日となった。専門別に22の視察団に別れ日本各地を視察して6月2日に帰国する予定。

台湾にはいわゆる教育テレビなどの放送がないため、教育庁がビデオを制作し教材としているとのことで、当区を来訪した一行は、ビデオ教育の専門の教師(16人)が中心で、視聴覚機器を熱心に見ていた。また台湾では'92年より3か年で200億円の予算をかけ各教室にテレビ受像機2台、OHP投写機1台を配備する計画があり本年が最終年となっている。

朱団長は「帰国後すぐに教育改革に着手し、今回の視察で得たものを活かすことができれば」と話していた。

詳細・教育委員会指導主事